



みずみどり

2001年5月15日 第24号

発行：いたばし水と緑の会 事務局

年会費 2,000円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会

ホームページ <http://www.ne.jp/asahi/nature/land/index.htm>

E-mail: mizumidori@nifty.com

〒174-0063 板橋区前野町5-31-7 瀬田方 TEL&FAX 3969-7124



赤塚自然池かいほり 速報

植田 隆夫

5月13日(日)に子供達も参加して自然池のかいほりを行いました。天気も良く、気温も上がり、かいほり日和となりました。

さて何故、自然池のかいほりをしたのでしょうか？そうです。ザリガニが大量発生したからです。ザリガニは何でも食べるのでヤゴ(トンボの幼虫)やオタマジャクシを食べてしまいます。放したザリガニが増えると、自然池にならないで、ザリガニ池となってしまうからです。

朝まず一番にオタマジャクシを避難させるために捕まえました。4月にあれほどいたオタマジャクシは、わずか41匹に減っていました。

赤塚の自然池は、ピオトープとして昔ながらの自然な池にしたいと管理してきました。しかし、



ザリガニが増え、金魚や鯉が泳ぎ、これらは自然池をつくってから放された生き物です。かいぼりは、放されたザリガニなどを取るだけではありません。池に生息している生き物の調査学習も目的のひとつ。

ポンプで水を汲み上げ、子供達は池のザリガニを捕り、大人は水路の清掃と生き物調査をしました。水路のザリガニは深さ30cmほど潜り込んだところに隠れています。腕の肘くらいまで、手を入れてつかみ出さなければならないほどです。

これでは水路の水が漏れてしまうので、なんとか対策を考えていかなければなりません。

子供達は泥だらけになりながら、泥水の中のザリガニを捕るのに夢中で、日頃出来ないどろんこ遊びが出来て楽しそうでした。

池の下流側は、ボーイスカウトの子供達も手伝って、土を入れ湿地帯にしました。

参加者は、子供80人位、大人30人位集まりました。

かいぼりの成果は、ザリガニ約400匹、鯉(40cm位)(写真右)7匹、ヘラブナ1匹、ウシガエル2匹(写真上)、モツゴ、メダカ、タモロコ多数、そしてヤゴ(イトトンボ2匹、ヤンマ5匹)。



昨年TVニュースで放送された、池の中に浮かべた水草の箱(浮島)のなかには、ザリガニも入っていましたが、ヤゴがいました。この水草のある浮島をつくったことにより、ヤゴが生息することがわかりました。やはり水草が重要だということです。

取ったザリガニの数は、一昨年のかいぼりの時の半分でした。ヘドロがたまっていて水を全部抜くことができなかったためか、あるいは日頃の捕獲の成果が現れたのか？

子供達は、取ったザリガニを家にもって帰りました。死ぬまで飼ってね、とお願いしました。

この池は、2週間どろんこのまま置いていきます。こうしたほうが、水辺の植物の種が発芽しやすいのだそうです。何が芽を出すか、見守ってください。

くのか、城址の草地に生えた木はどうするのか等)

- ②多くの利用者の目に触れる場所なので、少しこぎれいにした方が、風当たりが強くなるのでは？（生き物の場所だというPRはもちろん大切）
- ③徳丸が原公園には、みんなに理解してもらうために掲示板をつくり、観察結果などを掲示したいが、今のメンバーだけではそこまで手が回らない。
- ①②については、話し合いにより管理の基本を決めたいと思います。

●メニュー案

作業が苦手な人や女性も楽しんで参加できるメニュー案がいくつか提案されました。

- ①自然発見ウォーキングは実行委員会をつくってやろう（活動のお知らせを見て参加してください）。散歩観察会を積み重ねてコースづくり、見所（自然）をさがすグループ、工作班、など。ボーイスカウトと一緒に企画できないか。
- ②和光市の湧水見学はとてもおもしろかった。身近な自然を知る散歩観察会をしたい。
- ③立派な自然を見に行こう
中澤さんの紹介で、長野県の国立公園（安曇村）で人の手の入っていない本当の自然を観察したり、市民参加で維持されている雑木林の管理を体験してみよう。
- ④マダケ、シノダケを公園に植えさせてもらおう。利用は10年先のことになる？
- ⑤少しずつでも自然の記録をしていこう。昆虫調査、植物調査をやろう。観察記録として大切な写真の撮り方の講習会をやりたい。

(以上)

平成12年度会計報告

収入の部		支出の部	
繰り越し	99,930	通信費	71,388
12年度会費	158,000	材料費	41,025
寄付	210,052	事務費	10,817
参加費	28,000	会場使用料	12,000
雑収入	2,481	保険料	10,800
		クリーンエイド	500
		備品費	54,101
		食料費	35,257
計	498,463	計	235,888

13年度繰り越し金 262,575円

報告1 城社の草原ビオトープの柵の修理

(4月8日)

草原の中は犬の糞だらけ。柵は故意に壊されたみたい。
今度は丸のままの竹でしっかり作り直し。



報告2 徳丸が原公園の池を修理しました(4月28日)

昨年は給水口からぼたぼた水が漏れていたの、水の補給をしなくてもちょうど良い具合でしたが、春になって降雨量が減り、給水口の水が止まって水位がぐんと下がりました。たちまち子供の遊び場になり、ひどい状態になっていました。柵を直し、水を入れてやっと池らしくなりました。卵がいっぱいあったという話だったが、オタマジャクシがほとんどいない。子供がどっさりヤゴをとっていったとか。その子はヤゴがトンボになることを知らなかった。自分で飼えればいけれど、この場所で、生き物が育つのを見守ってほしいなあ。

大門の森という公園ができていた

赤塚公園大門地区ゆったり坂の入り口に大門の森という公園ができました。以前は畑だったところ。ツツジの植え込みのある立派な階段を上ると森はなくて広場があり、門松のように木が2本ならんでいて、巣箱が二つ。だれがどのように利用をされるのでしょうか。

野鳥も住み難そう。



昔の自然を語る会その2

記録：瀬田 政江

2月17日、徳丸出張所にて昭和初期から40年頃までの西台、若木地域の水の話、田んぼ、川、虫、鳥、動物などなど話をうかがいました。今回は結婚して板橋の住民となられた泉貞代さん（大正15年生まれ、若木3丁目）、老川則子さん（昭和8年生まれ、西台1丁目在住）、植田千佳子さん（現在は東新町在住）による、昭和30年から40年ごろの自然のお話です。

30年頃からの話

皆さんからうかがいました。蓮根川の縁には、ソバ、ジュズダマがあり、新河岸川のあたりは、自生したレンゲの原となり、カラシナ、セリがとれ、ノビルなどは酢味噌で食べた。他にもナズナ、ハコベ、ヨモギなどなど。現在でも西台の不動尊のあたりなど、ヨモギを初めとして、キツネノカミソリ、ヒガンバナ、蔦のとう、などあるところにはある。またここは、昭和20年、30年ころはススキの原でもあった。ススキは茅葺屋根として利用したのだろうか？

また西台公園の周りにはあちこちに湧き水が出ていた。見次公園では現在でも見られる。そのほか、あちこちに湧き水があった。

紅梅小学校下の湧き水の話

友人が徳丸にいたので紅梅小学校北側の崖下の湧き水を何度か見た。湧き水は下から1m位の高さで、水道の蛇口を全開したしたくらいの水量が流れ出て、下に桶を置いて、菜っ葉や白菜などの野菜を洗ったり、近所の人が洗い物に使っていた。この崖線に沿って、至る所で水がしみ出ている、じめじめしており、崖にはコナラやクヌギの木が鬱蒼と茂っており、東京でこんなに水量の多い湧き水があることに感動した覚えがある（昭和28年頃の植田さんの話）。

昭和30年を過ぎた頃の水の確保に苦労された話

麦畑や雑木林が住宅地として開発され始めた頃に、新所帯をもたれた老川さんと泉さんは、まず水で苦労されたそうです。

昭和33年建売住宅を買って住み始めた頃は、井戸は10軒で1つしかなく、しかも水がなかなか出にくい場所で、もらい水をしたり、やかんの水一杯で過ごした日もあったとか。その後余りにも水に困って、水の確保のための寄り合いを持ち、様々な働きかけの末、共同井戸ができた（西台共同井戸利用組合）。この井戸は多い時は420軒が使用した。暫くすると地下水の水質の問題などが生じて、昭和50年頃には、東京都の水道となった（老川さん）。

若木では、近所の家7軒に井戸がそれぞれあったが、水の出は悪かった。我が家で水が出なくな

って掘り下げるとしばらくは出る。すると今度は隣の家が出なくなって隣がまた掘り下げる、とまた家が出なくなる、ということを繰り返し、2年間で3回掘り下げた。結局、墓地の後に深い井戸を掘り、それぞれの家庭に水を配管した水道会社に参加したが、やがて水質が飲用不適になり、昭和40年代に都の水道に切り替えた。

道路普請も住民の手で

新しく宅地開発されたところは、道路も赤土で雨が降るとぬかるんで大変だった。砂利を買い、あるいは区から石炭殻を運んでもらい、農家からリヤカーを借りてそれを運び近所中で補修した。靴が泥だらけになるので駅に長靴を預け、電車に乗るときには靴を履き替えたり、滑って転んだお尻を隠しながら、電車に乗ったりとかの懐かしい苦労話も。

よく霞がかかった。子供の頃霞を見たことがなかったので、風流だなと思っていたら、ゴミの山から湯気が立ち上ったためだとわかった。夕刻帰ってくると霞がひどく、前が見えなくなって手探りするほどだった。

環状八号道路についての意見も出されました。

近くの環八予定地は、道路にはふさわしくない場所だとつくづく思う。ここは虫や、珍しい植物が残されており、このまま是非残しておきたいと強く思いました。私たちが便利さを追求するあまり、本当に大切なものが失われていく。

失われていく自然と公園の役割

身近な自然が失われていく、そして公園の自然は貧しい。「なんで公園の木をやたら切るのだろうか」という疑問がわく。立ち枯れの現象もおきている。公園の木の落ち葉を嫌がる人が多いので、区は先回りしすぎて樹を切っているのか？住民エゴなのか？

樹は、落ち葉があるかもしれないが、空気をきれいにするなど、素晴らしい力もあるのに。確かに自然を維持するにはお金がかかるので、あのような公園管理になるのだろう。公園の落ち葉は近くの人が掃く、そういう余裕があっても良いのではないか。

西台公園では、地面が固く、落ち葉も下草もない。根が浮き上がり、木が枯れてずいぶん切られている。公園の木々も下草も、落ち葉もとても大切なものではないか。

昨年の虫の調査の結果なども発表して、自然の大切さを訴えていきたい。

水と緑の会としては、

今日聞かせていただいた水や木、虫、鳥、動物、魚などの話を、昔話にしてしまってよいのだろうか？

林や森は何千年、何百年と受け継いで来たもの。私たちの代で終わらせてはいけない。

活動のお知らせ

どなたでも参加できます。名札を持っている人は忘れずにつけてきてください。

- **定例会は毎月第1金曜日**
日時：6月1日(金)18:30~20:30
7月6日(金)18:30~20:30
場所：エコポリスセンター
- **会報発送**
日時：7月13日(金)17:30~19:00
場所：エコポリスセンター
お手伝いできる方は応援よろしく
- **赤塚自然池かいぼり後の作業**
日時：5月26日(土)10:00~12:00
場所：美術館前
内容；かいぼり後自然に水草が生えやすくするために2週間水を入れず干しています。池と水路の生き残りのザリガニを捕り、水草の芽生えの状況を観察します。
持ち物：汚れてもよい服装、長靴、タオル、植物図鑑など
連絡先：坂本 090-5618-1295
- **話し合い「公園の自然管理をどうする」**
日時：6月2日(土)10:00~12:00
場所：徳丸が原集会所
内容；徳丸が原公園と赤塚のピオトープの自然管理をどうするか、話し合います。方針に沿ってボランティアで見回りや、管理をします。
連絡先：植田 3958-9209 または
大西 3938-3106
- **赤塚自然発見ウォーキング実行委員会**
日時：6月16日(土)10:00~12:00
場所：赤塚5丁目集会所
内容；秋に実施する「赤塚公園自然発見ウォーキング」を楽しいイベントにするために、実行委員会によりみんなでアイデアを出し合い、計画をつくりませんか。メニューには植物や生き物さがし、ゲーム、竹や落ち葉を使った工作等々・・・打ち合わせのあと、時間のある人はおすすりめコースさがしと観察会にも参加してください(午後)。
連絡先：瀬田 3969-7124
坂本 090-4618-1295
- **白子川源流ウォッチング**
日時：6月17日(日)13:00~15:30
場所：大泉第2小学校(西武池袋線保谷駅下車(わかりにくいので要連絡))
連絡先：須貝 048-464-5545
白子川流域の市民が集まって、水環境を良くする会を設立することになりました。発会式は10:00から。ウォッチングだけの参加も可。白子川は湧き水の多い川です。源流にはホトケドジョウもいます。
- **13年度年会費を納入していない方はおわすれなく。**